

印西地区消防組合公告第11号

職員靴購入の事後審査型制限付一般競争入札の実施について

地方自治法第234条第1項の規定により、事後審査型制限付一般競争入札を次のとおり実施する。

平成29年7月31日

印西地区消防組合管理者 伊澤史夫

1 事業名称

- (1) 業務名 職員靴購入
- (2) 納入場所 印西地区消防組合消防本部
- (3) 納入期限 平成29年11月27日(月) 消防職員貸与分
平成30年 3月23日(金) 新規採用職員分
- (4) 事業概要
 - ①目的 平成29年度消防職員貸与被服(靴)購入及び新規採用職員分被服(靴)購入
 - ②規模等 短靴一式、編上靴一式
 - ③仕様 別途仕様書のとおり
- (5) 入札方法 事後審査型制限付一般競争入札

2 入札参加者の資格要件

本事業の入札参加を希望する場合の資格要件は、次のとおりである。

- (1) この事業の公告日現在において、印西地区消防組合を構成する市(印西市及び白井市以下「関係市」という。)の平成28、29年度競争入札参加資格者名簿(以下「資格者名簿」という。)に登載されている者のうち、物品部門の「消防・保安用品(防火服・保護具)」の登録業者で、関係市の建設工事請負業者等指名停止措置要領に基づく指名停止措置を、本公告の日から本業務の入札日までの間、受けていない者でなければならない。
- (2) 千葉県内に本店若しくは年間委任を受けた支店等を有する者であること。
- (3) 地方自治法施行令第167条の4の規定に該当する者のほか、手形交換所による取引停止処分を受けてから2年間を経過しない者、当該業務の入札日前6か月以内に手形、小切手を不渡りした者及び会社更生法の適用申請した者で同法に基づく裁判所からの更生手続開始決定がされていない者、又は民事再生法の適用申請した者で同法に基づく裁判所からの再生手続開始決定がされていない者及び警察当局から、暴力団員が実質的に経営を支配する業者又はこれに準ずるものとして、国土交通省発注工事等からの排除要請があり、当該状態が継続している者は参加することができないものとする。

3 入札参加の届出

本事業の入札参加を希望する者は、事後審査型制限付一般競争入札参加届出書を持参により提出するものとする。

- (1) 様式 印西地区消防組合ホームページ→入札情報からダウンロード
URL <http://fire-inzaichiku.eco.coocan.jp/>
- (2) 期間 平成29年7月31日(月)から平成29年8月10日(木)
(土曜日、日曜日、祝日を除く)
- (3) 時間 午前9時から午後5時まで
- (4) 場所 印西地区消防組合消防本部総務課

4 設計図書等の配布又は縦覧又は貸出

印西地区消防組合入札約款及び本業務に係る契約書案、設計図面及び仕様書(以下「設計図書等」という。)の縦覧は次のとおり行う。

- (1) 縦覧期間 平成29年7月31日(月)から平成29年8月10日(木)
(土曜日、日曜日、祝日を除く)
- (2) 縦覧時間 午前9時から午後5時まで
- (3) 縦覧場所 印西地区消防組合消防本部総務課(入札約款及び本業務に係る契約書案)
印西地区消防組合消防本部総務課(設計図書等)

5 質問及び回答

設計図書等に関して質問等がある場合は、事業担当(総務課)に電話連絡のうえ、使用印の押印された質問書により、次のとおりファクシミリ又は電子メールにて提出すること。

- (1) 期間 平成29年7月31日(月)から平成29年8月10日(木)
- (2) 提出先 印西地区消防組合消防本部総務課
- (3) 回答 平成29年8月23日(水)までにファクシミリ又は電子メールにて通知する。

6 入札の執行

(1) 入札書に記載する金額

落札決定に当っては、入札書に記載された金額に当該金額の8パーセントに相当する額を加算した金額(当該金額に1円未満の端数があるときは、その端数金額を切り捨てるものとする。)をもって契約金額とするので、入札者は、消費税及び地方消費税に係る課税事業者であるか免除事業者であるかを問わず、見積もった契約金額の108分の100に相当する金額をもって入札金額とすること。

(2) 落札候補者の決定

地方自治法施行令第167条の10第1項に規定する場合を除き、印西市契約事務規則第11条第1項の規定により定めた予定価格の制限の範囲内で最低の価格をもって入札(有効な入札に限る)した者から順に落札候補者とし、資格確認後、落札者として

決定する。なお、最低の価格をもって入札した者が資格要件を満たしていない場合は、予定価格の制限の範囲内で応札した次順位者から確認書類の提出を求め、順次審査を行い、最初に入札参加資格を満たしている者を落札者とする。

7 入札（開札）の日時及び場所

- (1) 入札日時 平成29年8月25日（金）午前10時00分から
- (2) 入札場所 印西地区消防組合消防本部セミナー室
- (3) 入札方法 印西地区消防組合入札約款のとおり
- (4) 入札回数 2回までとする。
- (5) 開札日時及び場所（1）及び（2）のとおりとする。

8 入札参加資格等確認書及び確認資料等の提出

開札後、落札候補者となった者は、別に配布する事後審査型制限付一般競争入札参加資格確認書提出要領に基づき、落札候補者として決定した日から起算して5日以内に入札参加資格等確認書及び確認資料等を持参により提出し、入札参加資格の確認を受けなければならない。

9 内訳書の提出

事後審査により落札者となった者は、落札金額の内訳を内訳書に記載し契約の前までに提出すること。

10 契約の締結について

落札候補者は、落札決定の日から7日以内（休日を除く。）に当該契約（議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例（昭和39年条例第13号）の規定により議決を要する契約に係る仮契約を含む。以下同じ。）を締結しなければならない。

また、期間内に契約を締結しないときは、落札はその効力を失う。

11 その他

- (1) 資格確認資料作成説明会及び現場説明会は、実施しない。
- (2) 資格確認資料のヒアリングは、実施しない。
ただし、記載内容が不明確で入札参加資格を確認できない場合には、説明を求めることがある。
- (3) 提出された資格確認資料は、返却しない。なお、公表し、又は無断で使用することはしない。
- (4) 納期は、事業により変更することがある。
- (5) 入札参加者は、入札約款及び配布書類を熟読し、入札に参加すること。

12 問い合わせ先

印西地区消防組合消防本部

入札担当 総務課 電 話 0 4 7 6 - 4 6 - 9 9 4 2

事業担当 総務課 電 話 0 4 7 6 - 4 6 - 9 9 4 2

F A X 0 4 7 6 - 4 6 - 9 9 1 4

E-mail fire-inzaichiku@nifty.com

消防吏員用被服仕様書

(靴等仕様書)

印西地区消防組合

総則

この仕様は印西地区消防組合において調達する消防吏員用被覆の仕様について定める。

1. 短靴

1. この仕様書は、印西地区消防組合において購入する、革製静電短靴（以下「靴」という）について規定する。

2. 製法及び種類

2-1) 製 法

靴の製法は、JIS S 5050（革靴）に規定するセメント式(C式)製法とする。

2-2) 種 類

靴の種類は、JIS T8103 静電気帯電防止靴に規定する静電作業靴（記号 AS-W）に準ずる。

3. 形 式

靴の形式は、モカ、スリッポン式短靴（通気機能付）とする。（図-1, 2, 3 参照）

4. 各部の名称及び主要材料

4-1) 各部の名称

各部の名称は、図-1 及び表-4 による。

4-2) 主要材料

(1) 甲 革

甲革は、厚さが均等で、傷などの欠点がなく、牛クロムなめし法により製造し、JIS T 8101 の革の試験方法により試験し、表-1 の規定に適合した牛クロムなめし革を用いる。

表-1

項 目		規 格 値
銀面割れ	突き上げ高さ (mm)	6 以上
	力 (N)	150 以上
クロム含有量 (%)		3.0~5.5
厚さ (mm)		1.5±0.2

(2) 甲縫糸

甲縫糸は太さ及びより方は均等なもので、使用目的に適合する合成繊維糸を用いる。

(3) 中 底

中底は、柔軟かつ強じんで、吸湿性のある合成材を用いる。

(4) 表 底

表底は、JIS T 8101 の表底の試験方法により試験し、表－2の規定に適合した発泡ポリウレタンを用いる。

表－2

項 目	規 格 値
引張強さ (MPa)	6 以上
伸 び (%)	300 以上
引裂強さ (N/mm)	25 以上

(5) 付属品

付属品は、使用目的に適合したものを使用する。

5. 構造及び寸法

5-1) 構 造

靴の構造は、つま先部に合成材、先芯を装着したもので、履口にクッションを取り付けたモカ、スリッポン式短靴の形状とする。(図-1, 2 参照) 表底に通気溝を設け、中底、中敷には通気穴を施した通気構造を兼ね備えたものとする。

(図-2, 3 参照)

表底は、クッション性の良い発泡ポリウレタンを使用し、底意匠は滑り止め機能を有する意匠とする。(図-2 参照)

また、靴底は静電気を除去する目的の静電気帯電防止機能がある構造とする。

5-2) 寸 法

靴の寸法は、JIS S 5037 靴のサイズに規定する EEE (男子用) を準用し、サイズは表－3の通りとする。

表－3

(単位：cm)

23.5	24.0	24.5	25.0	25.5	26.0	26.5	27.0	27.5	28.0
------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

6. 完成品の性能及び試験方法

6-1) 完成品の性能

(1) 表底のはく離抵抗

靴の表底のはく離抵抗は、JIS S 5050 の規定により試験し、150N以上であること。

(2) 静電気帯電防止性能

靴の静電気帯電防止性能は、JIS T 8103 の試験方法により試験し、電気抵抗 (R) は、 $1.0 \times 10^5 \leq R \leq 1.0 \times 10^9 \Omega$ 以内であること。

7. 品質及び外観

靴は仕上がりが良好で、形状が均整かつ堅固なもので、4の規定を満足する材料を用い、傷、斑点、汚れ、その他著しく外観を損なうような欠点がないものとする。

8. 検査及び試験

8-1) 材料及び完成品についての検査は、合理的な方法で行い、試験は JIS T 8101 の規定により行う。

8-2) 静電気帯電防止性能試験は、JIS T 8103（1998 年度版）に規定する第 2 試験方法により全数検査を行う。

9. 包装

靴は個装箱に箱詰めする。

10. 表示

10-1) 表底

靴の表底には、サイズ、ウイズおよび商標等を容易に消えない方法で表示する。

10-2) 個装箱

個装箱には、靴の品名、サイズ、及び商標等を表示する。

11. 試験成績票及び使用説明表

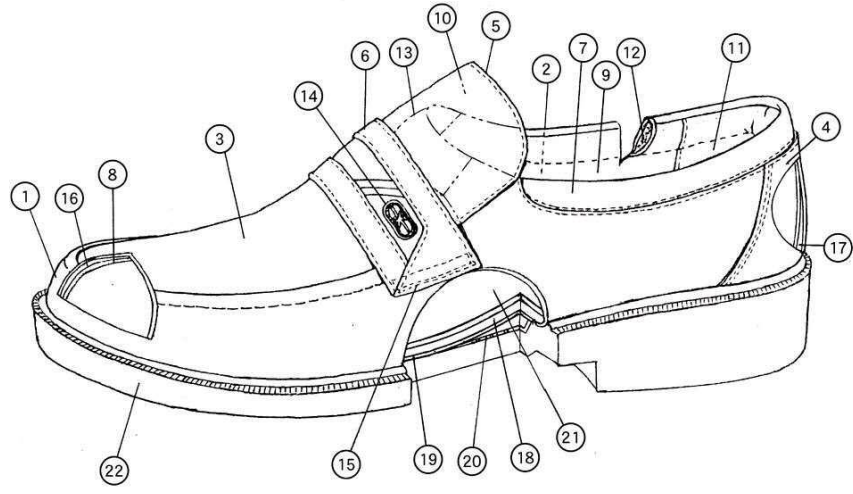
静電靴には、1 足毎に試験成績票及び使用説明表（様式－1）を添付する。

表-4

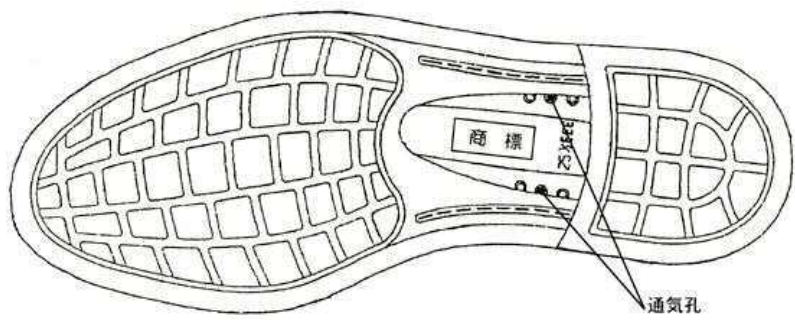
(単位：mm)

No	名 称	材 料 名	摘 要
1	先 革	牛クロムなめし革 黒	別規格の通り
2	腰 内 革	〃 〃	〃
3	モ カ 革	〃 〃	〃
4	腰 踵 革	〃 〃	〃
5	ベ ロ 革	〃 〃	〃
6	パ ン ト 革	〃 〃	〃
7	履 口 革	〃 〃	〃
8	先 裏 布	合成材 (キルティング) グレー	厚さ 2.0 標準
9	腰 裏 布	不織布 (マリーク)	片面糊引加工
10	べ ろ 裏	〃 〃	〃
11	す べ り	合成材	厚さ 0.8 以上
12	履口スポンジ	ウレタンスポンジ	厚さ 5.0 標準
13	甲 ゴ ム	甲ゴム	幅 25
14	ワポイト美錠	真鍮製	
15	甲 縫 糸	合成繊維糸	#30 番手相当
16	先 芯	合成材	厚さ 1.2 以上
17	月 型 芯	合成材	最厚部 1.7 以上
18	中 底	合成材 (導電ライトレ) + フレスポート 中継	厚さ 2.5 以上
19	中 物	導電スポンジ	厚さ 2.5 以上
20	踏まずしん	樹脂シャンク	厚さ 1.0 標準
21	中 敷	カップ インソール (導電仕様)	アークション付
22	表 底	発泡ポリウレタン (静電配合)	別規格の通り

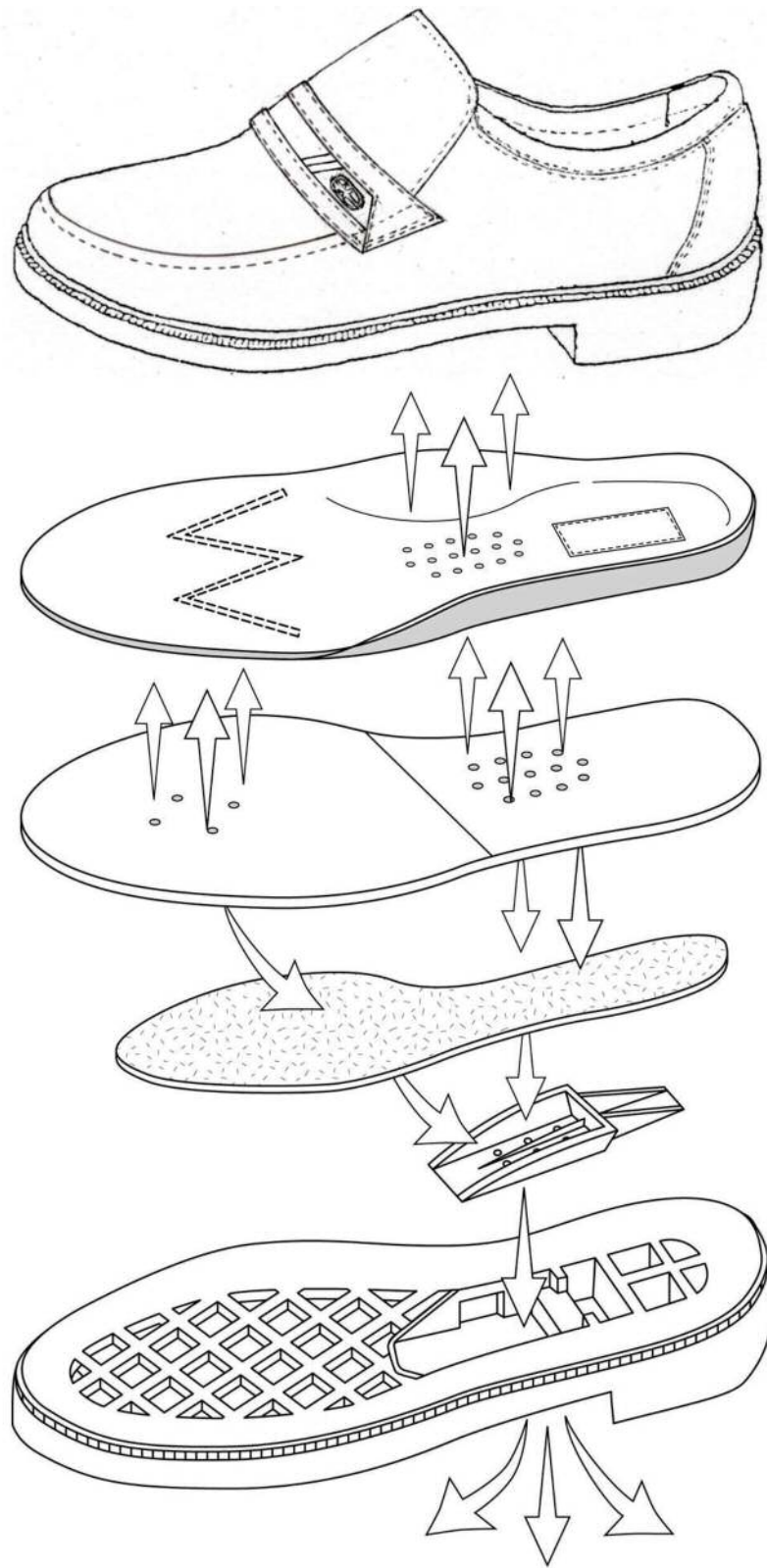
圖一 外觀圖



圖二 底意匠圖



图—3 通氣構造図



2. 救急隊用短靴

1. 適用範囲

本仕様書は、印西地区消防組合において購入する、救急隊員向けの静電安全靴について必要事項を定める。緊急時の靴の脱ぎ履きがしやすい構造で、着用者の足の保護と人体の静電気帯電が原因となって発生する災害及び障害を防止する目的で使用する静電気帯電防止性能を有する救急隊向け安全靴(以下「靴」という)について規定する。

2. 製法及び種類

靴の製法は、直接加硫圧着式製法とし、靴の種類は、JIS T 8103(静電気帯電防止靴)に規定する特種静電安全靴:環境区分1・革製普通作業用(EDX-P/C1/革製/S)とし、付加的性能として、かかと部の衝撃エネルギー吸収性(E)及び耐滑性(F)を有するものとする。

3. 形式

靴の形式は、スリッポンタイプ短靴とする。

4. 各部の名称及び主要材料

各部の名称は、表-5、図-1による。

主要材料は、以下による。

4.1 甲被

甲被は、厚さが均等で、傷などの欠点がなく、クロムなめし法により製造し、JIS T 8101(安全靴)の革の試験方法によって試験したとき、表-1に適合する牛クロムなめし革を用いる。

表-1

項目		規格
銀面割れ	高さ mm	6.0以上
	荷重 N	150以上
クロム含有量	%	3~5.5
厚さ	mm	1.5以上

4.2 表底

表底(アウトソール)は、滑り止め効果のある形状を有し、JIS T 8101の表底の試験方法によって試験したとき、表-2に適合する合成ゴムを用いる。

表-2

項目		規格
引張試験	引張強さ MPa	14以上
	伸び %	300以上
引裂試験	引裂強さ N/mm	35以上
老化試験	引張強さの変化 %	-15~+15
浸せき試験	体積変化率 %	12以下

4.3 甲縫糸

甲縫糸は、太さ及びより方が均等で、使用目的に適合した合成繊維糸を用いる。

4.4 先しん

先しんは、表面をすべて平滑に仕上げ、へり及び角に丸みをつけたワイド強化樹脂製のものを用いる。

4.5 中底

中底は、導電性を有し、柔軟性及び吸湿性のある合成材を用いる。

5. 構造及びサイズ

5.1 構造

靴は、人体に帯電する静電気を靴底から漏洩させる構造とし、つま先部にワイド強化樹脂製先しんを装着、かかと部に反射材、履き口部とべろ部にクッションを取り付けたものとし、ワイドに設計した履き口と踏んでも折れにくい芯入りのかかと及び甲部のシャーリング(蛇腹形状)によってべろが折れることで、足入れしやすく屈曲も容易で手を使わずに脱ぎ履きしやすい構造になっています。又、表底は熱に強くクッション性に優れた合成ゴム2層底(発泡ゴムと無発泡ゴムの2層構造)で、底意匠は耐滑性、屈撓性、泥詰まり防止を加味したものとする。

5.2 サイズ

靴のサイズは、JIS S 5037(靴のサイズ)に規定するEEE(男子用)を準用し、表-3のとおりとする。

表-3

単位:cm

23.5	24	24.5	25	25.5	26	26.5	27	27.5	28	29	30
------	----	------	----	------	----	------	----	------	----	----	----

6. 完成品の性能

6.1 耐衝撃性及び耐圧迫性

靴の耐衝撃性及び耐圧迫性は、JIS T 8101 の衝撃試験方法及び圧迫試験方法によって試験したとき、表-4に適合すること。

6.2 表底のはく離抵抗

靴の表底のはく離抵抗は、JIS T 8101 の表底のはく離試験方法によって試験したとき、表-4に適合すること。

6.3 かかと部の衝撃エネルギー吸収性

靴のかかと部の衝撃エネルギー吸収性は、JIS T 8101 のかかと部の衝撃エネルギー吸収性試験方法によって試験したとき、表-4に適合すること。

6.4 耐滑性

靴の耐滑性は、JIS T 8101 の耐滑性試験方法によって試験したとき、表-4に適合すること。

6.5 帯電防止性能

靴の帯電防止性能は、JIS T 8103:2010 の9.1によって試験したとき、測定値では15秒値と1

分値の両方で、靴1個当たりの電気抵抗(R)が表-4に適合すること。

又、JIS T 8103:1983 の第2試験方法によって試験したとき、靴1個当たりの電気抵抗(R)が表-4に適合すること。

表-4

項目	規格														
耐衝撃性及び耐圧迫性 試験条件:S種	<table border="1"> <thead> <tr> <th>サイズ(足長)</th> <th>すき間(mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>23以下</td> <td>12.5以上</td> </tr> <tr> <td>23.5~24.5</td> <td>13.0以上</td> </tr> <tr> <td>25~25.5</td> <td>13.5以上</td> </tr> <tr> <td>26~27</td> <td>14.0以上</td> </tr> <tr> <td>27.5~28.5</td> <td>14.5以上</td> </tr> <tr> <td>29以上</td> <td>15.0以上</td> </tr> </tbody> </table>	サイズ(足長)	すき間(mm)	23以下	12.5以上	23.5~24.5	13.0以上	25~25.5	13.5以上	26~27	14.0以上	27.5~28.5	14.5以上	29以上	15.0以上
	サイズ(足長)	すき間(mm)													
	23以下	12.5以上													
	23.5~24.5	13.0以上													
	25~25.5	13.5以上													
	26~27	14.0以上													
	27.5~28.5	14.5以上													
29以上	15.0以上														
※すき間…中底と先しんのすき間															
表底のはく離抵抗	300N以上														
かかと部の衝撃エネルギー吸収性	吸収エネルギーが20J以上														
耐滑性	靴底の動摩擦係数が0.20以上														
帯電防止性能	JIS T 8103:2010 の 9.1 によって試験したとき、 靴1個当たりの電気抵抗(R)が、 測定温度 $23 \pm 2^{\circ}\text{C}$ 、相対湿度 $12 \pm 3\%$ (環境区分1:C1)において、 $1.0 \times 10^5 \leq R \leq 1.0 \times 10^7 (\Omega)$ 測定温度 $0 + 2^{\circ}\text{C}$ 、相対湿度を定めないにおいて、 $1.0 \times 10^5 \leq R \leq 1.0 \times 10^8 (\Omega)$														
	JIS T 8103:1983 の第2試験方法によって試験したとき、 靴1個当たりの電気抵抗(R)が、 社内規格 20℃ $0.15 \leq R \leq 10 (\text{M}\Omega)$														

7. 品質及び外観

靴は、仕上げが良好で、形状が均整かつ堅固なもので、使用上有害な、傷、斑点、汚れ、その他著しく外観を損なうような欠点がないものとする。

8. 検査

8.1 帯電防止性能検査

靴の帯電防止性能検査は、JIS T 8103:2010 の 9.1 に規定する試験方法によって抜取検査を行うと共に、JIS T 8103:1983 の第2試験方法によって全数検査を行う。

8.2 材料及び完成品検査

材料及び完成品についての検査は、合理的な抜取方式によって行う。

9. 包装

靴は、1足ずつ個装箱に詰める。

10. 表示

10.1 製品

靴には、靴のサイズ、JISマーク、JIS認証機関名又はその略号、JIS規格番号及び名称、JIS規格種類又はその記号、環境区分又はその記号、JIS認証番号、製造業者名又はその略号、製造年月又はその略号等を表示する。

10.2 個装箱

靴の個装箱には、品名、靴のサイズ、JISマーク、JIS認証機関名又はその略号、JIS規格番号及び名称、JIS規格種類又はその記号、環境区分又はその記号、JIS認証番号、製造業者名又はその略号等を表示する。

11. 特種静電靴検査票

靴には、1足毎に特種静電靴検査票(裏面:注意事項)を添付する。

12. 注意事項

- 正しく安全にお使いいただくために、ご使用前には必ず個装箱や特種静電靴検査票などに記載の「注意書き」をお読み下さい。
- 革は乾燥すると硬くなりますので、適宜保革油を塗って下さい。
- 濡れた革は熱に弱いので、高温になるものに近づけないで下さい。裸火あるいは直射日光で乾かすと革の繊維が収縮、変質してゴワゴワになり元の形に戻らなくなります。又、ひび割れや破れの原因になります。
- 本商品の仕様・デザイン等は予告なく変更する場合があります。

表-5

単位:mm

No.	名称	使用材料	備考
1	先革	牛クロムなめし革 ブラック	厚さ1.7標準
2	モカ革	〃 〃	〃
3	腰革	〃 〃	〃
4	アウポケ	〃 〃	〃
5	甲蛇腹革	牛ソフト革 〃	厚さ1.1標準
6	先裏	合成繊維不織布+スポンジ グレー	
7	腰裏	〃 〃	
8	履口クッション	スポンジ	厚さ10標準
9	べろクッション	〃	厚さ3標準
10	べろ補強材	PVCシート	
11	甲ゴム	博多織 ブラック	幅30標準
12	蛇腹クッション	スポンジ	
13	反射材	再帰反射パイピング シルバー	芯有
14	月形しん	再生革	
15	甲縫糸	合成繊維糸 ブラック	#20番手相当
16	中底	導電性合成材	
17	先しん	ワイド強化樹脂製	
18	表底(ミッド)	発泡合成ゴム ブラック	静電配合
19	表底(アウト)	耐油性合成ゴム 〃	〃、表-2による
20	中敷	EVA2層カップインソール イエロー	導電構造、抗菌・防臭加工 名札ポケット付

図-1 外觀(外側)

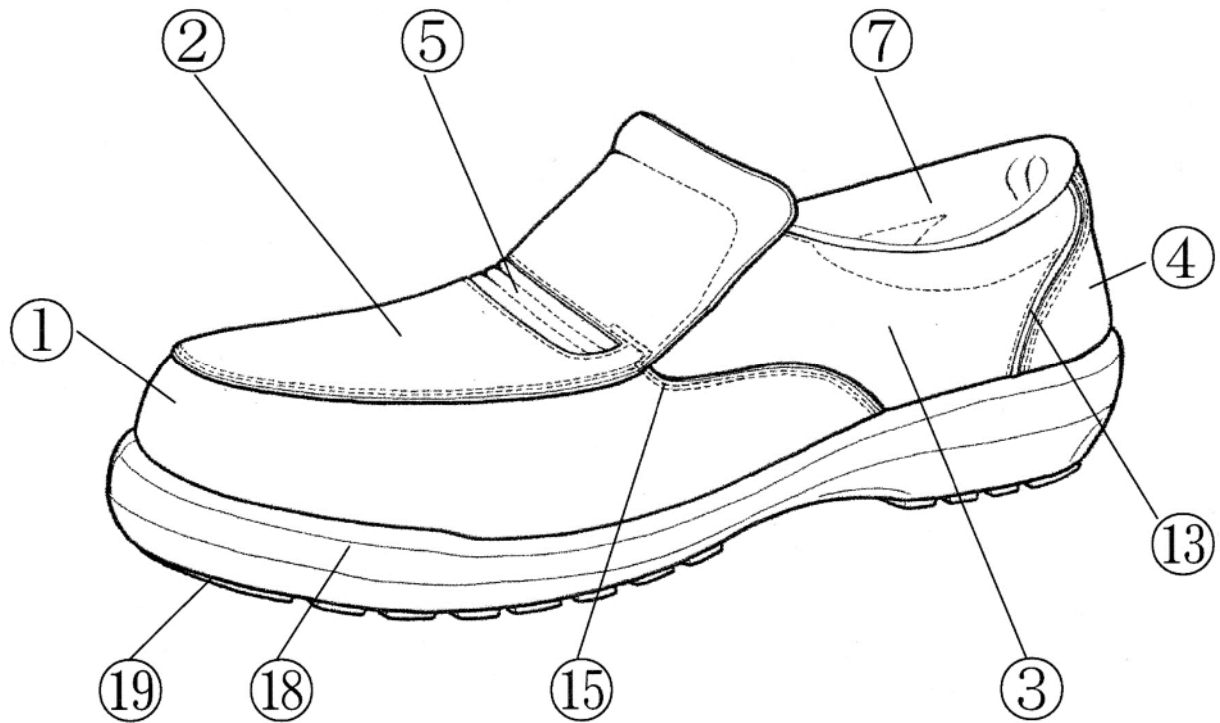
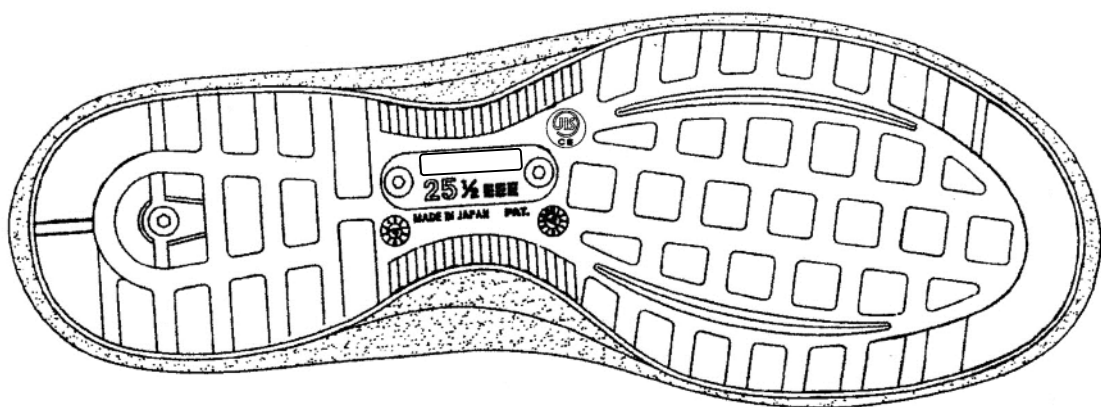


図-2 底意匠



3. ローファー

1. 適用範囲

この仕様書は、印西地区消防組合において購入する、女性用超耐滑作業靴(以下「靴」という)について規定する。

2. 製法

靴の製法は、セメント式製法とする。

3. 形式

靴の形式は、ローファータイプ短靴とする(図-1)。

4. 各部の名称及び主要材料

各部の名称は、図-1、表-5による。

主要材料は以下による。

4.1 甲被

甲被は、JIS K 6505:1995(靴甲用人工皮革試験方法)によって試験したとき、表-1に適合する人工皮革を用いる。

表-1

項目		規格
引張強さ	縦	7.0以上
	横	
伸び	縦	40以上
	横	

4.2 表底

表底は、滑り止め効果のある形状を有し、JIS T 8101:2006(安全靴)の表底の試験方法によって試験したとき、表-2に適合する合成ゴムを用いる。

表-2

項目		規格
引張試験	引張強さ MPa	8以上
	伸び %	300以上
引裂強さ	N/cm	300以上
浸せき試験	体積変化率 %	20以下

4.3 甲縫糸

甲縫糸は、太さ及びより方が均等で、使用目的に適合した合成繊維糸を用いる。

4.4 中底

中底は、適度な柔軟性及び吸湿性のある合成材を用いる。

5. 構造及びサイズ

5.1 構造

靴の構造は、脱ぎ履きの容易なローファーデザインで、表底は水や油などで滑りやすい床でも耐滑性に優れる靴底意匠と配合の合成ゴム1層底とする(図-1, 2)。

5.2 サイズ

靴のサイズは、JIS S 5037:1998(靴のサイズ)に規定するEEE(女子用)を準用し、表-3のとおりとする。

表-3 単位 cm

22	22.5	23	23.5	24	24.5	25	25.5
----	------	----	------	----	------	----	------

6. 完成品の性能

6.1 表底のはく離抵抗

靴の表底のはく離抵抗は、JIS T 8101:2006 の表底のはく離試験方法によって試験したとき、表-4に適合する事。

6.2 耐滑性

靴の耐滑性は、JIS T 8101:2006 の耐滑試験方法によって試験したとき、表-4に適合すること。

表-4

項目	規格
表底のはく離抵抗	200N以上
耐滑性	動摩擦係数が0.20以上

7. 品質及び外観

靴は、仕上げが良好で、形状が均整かつ堅固なもので、使用上有害な傷、斑点、汚れ、その他著しく外観を損なうような欠点がないものとする。

8. 検査

材料及び完成品についての検査は合理的な抜取方式によって行う。

9. 包装

靴は、1足ずつ個装箱に詰める。

10. 表示

靴には、品名、サイズ、製造年月又は略号等を表示する。

個装箱には、品名、サイズ、発売元、注意書き等を表示する。

11. 注意事項

○正しく安全にお使いいただくために、ご使用前には必ず箱などに記載の「注意書き」をお読み下さい。

○靴底の汚れはスベリの原因になります。こまめに汚れを取って下さい。

表-5

単位 mm

No.	名称	使用材料	備考
1	先革	人工皮革 黒	厚さ1.7標準
2	モカ革	〃 〃	〃
3	バンド革	〃 〃	〃
4	履口革	〃 〃	〃
5	モカ裏	〃 グレー	厚さ0.9標準
6	インボケ	〃 〃	厚さ1.2標準
7	甲縫糸	合成繊維糸 黒・グレー	#20番手相当
8	モカ縫糸	〃 黒	#5番手相当
9	先しん	合成材(ホットメルトタイプ)	
10	月形しん	合成材(プライシート)	厚さ2.5標準
11	中底	合成材	
12	踏まずしん	スチールシャンク	
13	中物	合成材	厚さ1.5標準
14	表底	合成ゴム 黒	表-2による
15	中敷	合成材/EVA全敷 〃	抗菌・防臭加工

図-1 外観

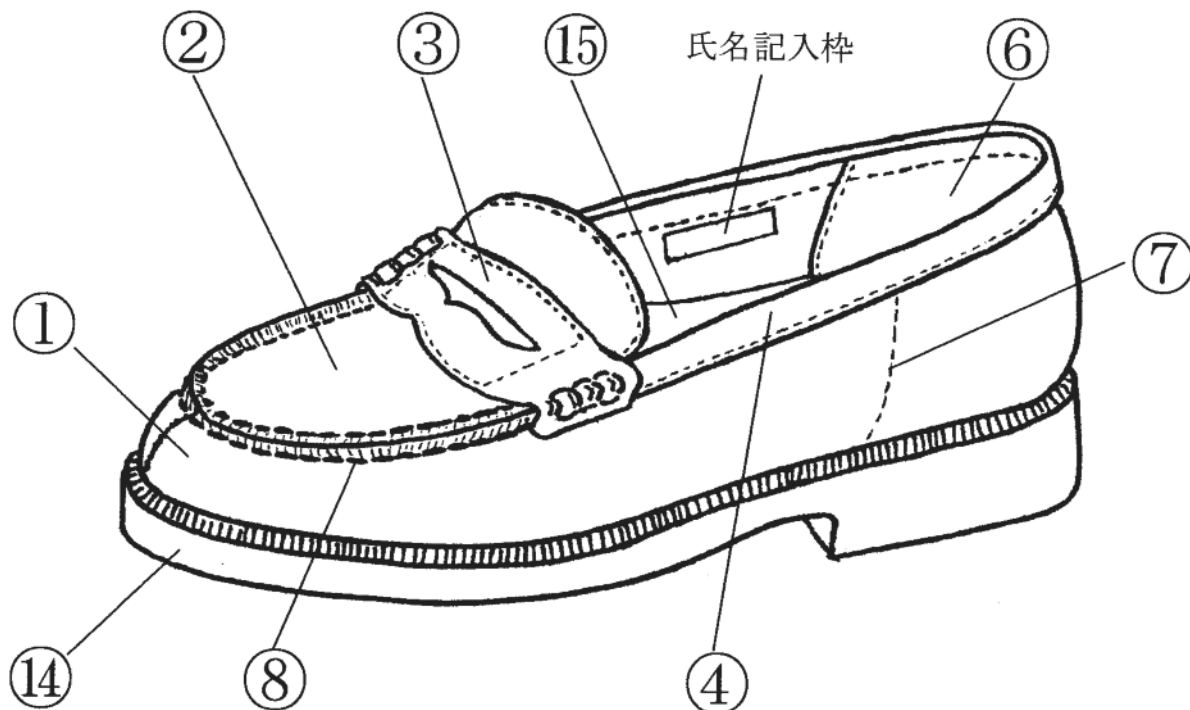
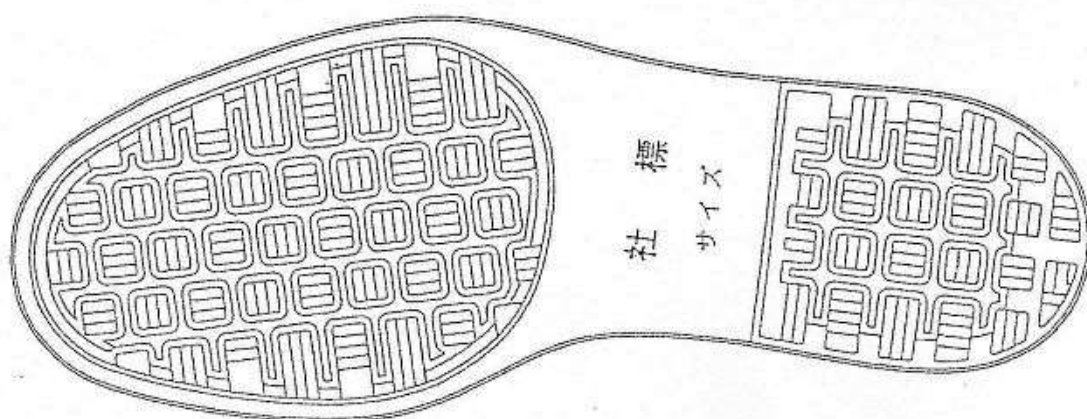


図-2 底意匠



但し、図による各部の形状は多少の相違を認めるものとする。

4. 編上靴

1. 適用範囲

この仕様書は、印西地区消防組合において購入する、静電気帯電防止用編上靴(以下「靴」という)について規定する。

2. 製法及び種類

靴の製法は、直接加硫圧着式製法とし、靴の種類は JIS T 8101:2006(安全靴)に規定する革製普通作業用(S)、付加的性能として、かかと部の衝撃エネルギー吸収性(E)、耐滑性(F)、耐踏抜き性(P)を有し、且つ、JIS T 8103:2010(静電気帯電防止靴)に規定する静電安全靴:環境区分 1(ED-P/C1)とする。

3. 形式

靴の形式は、外ファスナー付きひも付き内羽根式長編上靴とする(図-1)。

4. 各部の名称及び主要材料

各部の名称及び主要材料は、図-1、表-6による。

4.1 甲被

甲被は、厚さが均等で、傷などの欠点がなく、牛クロムなめし法により製造し、JIS T 8101:2006の試験方法により試験し、表-1に適合した耐久性のある牛クロムソフト型押し銀付革を用いる。

表-1

項目		規格
銀面割れ	高さ mm	6.0 以上
	荷重 N	150 以上
クロム含有量	%	3~5.5

4.2 表底

表底は、滑り止め効果のある形状を有し、JIS T 8101:2006 の表底の試験方法により試験し、表-2に適合した合成ゴムを用いる。

表-2

項目		規格
引張試験	引張強さ MPa	14 以上
	伸び %	300 以上
引裂試験	引裂強さ N/mm	35 以上
老化試験	引張強さの変化 %	-15~+15
浸せき試験	体積変化率 %	12 以下

4.3 甲縫糸

甲縫糸は、太さ及びより方が均等で、使用目的に適合した合成繊維糸を用いる。

4.4 先しん

先しんは、表面をすべて平滑に仕上げ、へり及び角に丸みをつけたワイド強化樹脂製のものを
用いる。

4.5 中底

中底は、導電性を有し、柔軟性及び吸湿性のある合成材を用いる。

4.6 付属品

付属品は、使用目的に適合したものを使用する。

5. 構造及び靴のサイズ

5.1 構造

靴は、人体に帯電する静電気を低温低湿度環境下でも安定して靴底から漏洩させる性能を
有した構造で、下記の特徴をもつ内羽根長編上タイプとする。

- (1)つま先にワイド強化樹脂製先しんを装着
- (2)内腰部にパッチ革(当て革)付き
- (3)履き口部裏に靴内部に入れた裾がずれないようにスベリ止め(縁裏)付き
- (4)市革部と踵部の2か所に暗所での視認性を高めるための反射材付き
- (5)外腰部に脱ぎ履きが容易なように履き口から足甲部側に傾斜させたファスナー付き
- (6)屈曲しやすいようにはとめ革足首付近に切れ込み入り
- (7)手袋等を着用時でもつかみやすいように長さ30mm以上ファスナーつまみ部を採用
- (8)べろ革裏に氏名片布付き

また、表底はクッション性と耐熱性に優れ、JIS T 8101:2006 に表底材として規定された合成ゴ
ムの加熱一体成形された2層底(発泡ゴムと無発泡ゴムの2層構造)で、踏抜防止板を内装し、
底意匠(スリップサイン付)は耐滑性、屈撓性、泥づまり防止を加味したものとする(図-1、
2)。

5.2 靴のサイズ

靴のサイズは、JIS S 5037:1998 靴のサイズに規定するEEE(男子用)を準用し、表-3のとおりとする。

表-3

単位 cm

22	22.5	23	23.5	24	24.5	25	25.5	26	26.5	27	27.5	28	29	30
----	------	----	------	----	------	----	------	----	------	----	------	----	----	----

6. 完成品の性能

6.1 一般性能

6.1.1 耐衝撃性及び耐圧迫性

靴の耐衝撃性及び耐圧迫性は、JIS T 8101:2006 の衝撃試験方法及び圧迫試験方法によって試験したとき、表-4に適合すること。

6.1.2 表底のはく離抵抗

靴の表底のはく離抵抗は、JIS T 8101:2006 の表底のはく離試験方法によって試験したとき、表-4に適合すること。

6.1.3 かかと部の衝撃エネルギー吸収性

靴のかかと部の衝撃エネルギー吸収性は、JIS T 8101:2006 のかかと部の衝撃エネルギー吸収試験方法によって試験したとき、表-4に適合すること。

6.1.4 耐滑性

靴の耐滑性は、JIS T 8101:2006 の耐滑試験方法によって試験したとき、表-4に適合すること。

6.1.5 耐踏抜き性

靴の耐踏抜き性は、JIS T 8101:2006 の耐踏抜き試験方法によって試験したとき、表-4に適合すること。

6.1.6 帯電防止性能

靴の帯電防止性能は、JIS T 8103:2010 の 9.1 によって試験したとき、測定値では15秒値と1分値の両方で、靴1個当たりの電気抵抗(R)が表-4に適合すること。

また、JIS T 8103:1983 の第2試験方法によって試験したとき、靴1個当たりの電気抵抗(R)が表-4に適合すること。

表-4

項目	規格	
耐衝撃性及び耐圧迫性 (試験条件:S種)	サイズ(足長)	すき間(mm)
	23以下	12.5以上
	23.5~24.5	13.0以上
	25~25.5	13.5以上
	26~27	14.0以上
	27.5~28.5	14.5以上
	29以上	15.0以上

	※すき間…中底と先しんとのすきま
表底のはく離抵抗	表底のはく離抵抗が300N以上
かかと部の 衝撃エネルギー吸収性	吸収エネルギーが20J以上
耐滑性	動摩擦係数が0.20以上
耐踏抜き性	くぎが貫通したときの力が1100N以上
帯電防止性能	JIS T 8103:2010 の 9.1 によって試験したとき、 靴1個当たりの電気抵抗(R)が、 測定温度 23±2℃、相対湿度 12±3% (環境区分1)において、 $1.0 \times 10^5 \leq R \leq 1.0 \times 10^8 \Omega$ ($0.1 \leq R \leq 100 \text{ M}\Omega$) 測定温度 0+2℃ (相対湿度を定めない)において、 $1.0 \times 10^5 \leq R \leq 1.0 \times 10^9 \Omega$ ($0.1 \leq R \leq 1000 \text{ M}\Omega$)
	JIS T 8103:1983 の第2試験方法によって試験したとき、 靴1個当たりの電気抵抗(R)が、 $1.0 \times 10^5 < R < 1.0 \times 10^8 \Omega$ ($0.1 < R < 100 \text{ M}\Omega$)

6.2 耐熱性能

6.2.1 表底の接触耐熱性

表底および表底接地部の接触耐熱性は、ISO20344:2011 の8.7の高温耐熱接触性試験方法によって試験したとき、表-5に適合すること。

6.2.2 靴内部の接触断熱性

靴内部の接触断熱性は、ISO20344:2011 の5.12の接触断熱性試験方法によって試験したとき、表-5に適合すること。

表-5

項目		規格
表底の 接触耐熱性	表底 (ミッドソール)	300℃、1分の接触で溶融なく、屈曲による亀裂が発生しない事
	表底接地部 (アウトソール)	
靴内部の接触断熱性		150℃熱板接触で靴内部の22℃温度上昇するまでの時間が20分以上

7. 品質及び外観

靴は、仕上げが良好で、形状が均整かつ堅固なもので、傷、斑点、汚れ、その他著しく外観を損なうような欠点がないものとする。

8. 検査

8.1 帯電防止性能検査

靴の帯電防止性能検査は、JIS T 8103:2010 の 9.1 に規定する試験方法により、抜取り検査を行うと共に JIS T 8103:1983 の 6.1.2 に規定する第 2 試験方法により全数検査を行う。

8.2 材料及び完成品検査

材料及び完成品についての検査は合理的な方法で行い、試験は JIS T 8101:2006 の規定により行う。

9. 包装

靴は、1足ずつ1足箱に箱詰めする。

10. 表示

10.1 製品

靴の表底には、社標、サイズ、JIS マーク等を容易に消えない方法で表示する。

靴の中敷には、JIS 規格による種類、JIS 認定番号、製造業者名又は略号を表示する。また、ベロ革裏にネーム布(図-2)を縫い付ける。

10.2 個装箱

靴の個装箱には、品名、サイズ、JIS マーク、JIS 規格番号、JIS 認定番号、JIS 規格による種類、製造業者名又は略号を表示する。

11. 静電靴検査票

靴には、1足毎に静電靴検査票(裏面:注意事項)を添付する。

12. 品質及び環境保全

本使用書、に規定される靴は、JIS 合格品であり、製法及び種類に該当する JIS 認定工場、かつ、品質に関わる ISO9001 及び環境に関わる ISO14001 またはエコアクション 21 を認証取得した工場で製造する。

表-6

単位 mm

No.	名称	使用材料	備考
1	先革	牛クロムソフト型押し銀付革 黒	厚さ 1.7 標準
2	腰革	〃 〃	〃
3	市革	〃 〃	〃
4	アウポケ	〃 〃	〃
5	パッチ革	〃 〃	〃
6	ファスナーカバー革	〃 〃	〃
7	べろ革	牛ソフト革 〃	厚さ 1.1 標準
8	べろ落ち防止革	〃 〃	〃
9	防水革	〃 〃	〃
10	インポケ	〃 〃	〃
11	はとめ裏	〃 〃	〃
12	先裏	合成材 グレー	
13	縁裏	PVC製 黒	
14	反射テープ	合成材反射布 オレンジ	幅 15 標準、市革部・アウポケ部
15	マジックテープ	合成樹脂製 黒	幅 25×45 標準
16	はとめ	真鍮製 〃	#300 丸／黒天塗
17	サイドファスナー	樹脂コイルファスナー No.8 〃	長さ 200～230 標準、つまみ長さ 35 標準
18	月形しん	再生革	
19	甲縫糸	合成繊維糸 黒	#20 番手相当
20	中底	導電性合成材	
21	先しん	ワイド強化樹脂製	
22	踏抜防止板	ステンレスバネ鋼	厚さ 0.4 標準
23	表底(ミッド)	発泡合成ゴム 黒	静電配合
24	表底(アウト)	耐油性合成ゴム 〃	〃 表-2による
25	中敷	合成材全敷(カップインソール) 〃	導電構造、抗菌・防臭加工

26	靴ひも	綿、合成繊維混紡	〃	長さ 1600 標準
27	氏名片布	綿布		

図-1 外 観

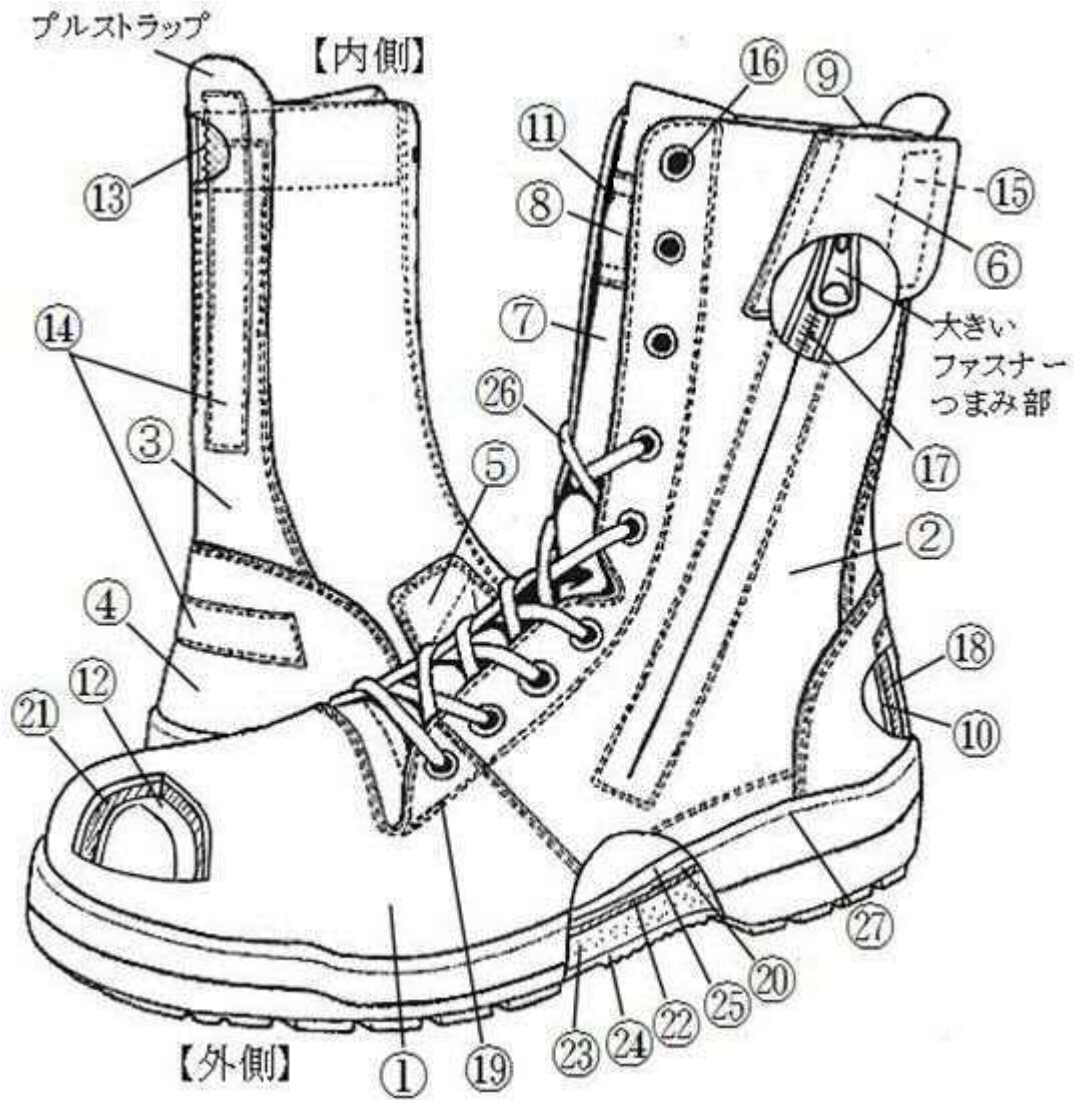


図-2 氏名片布

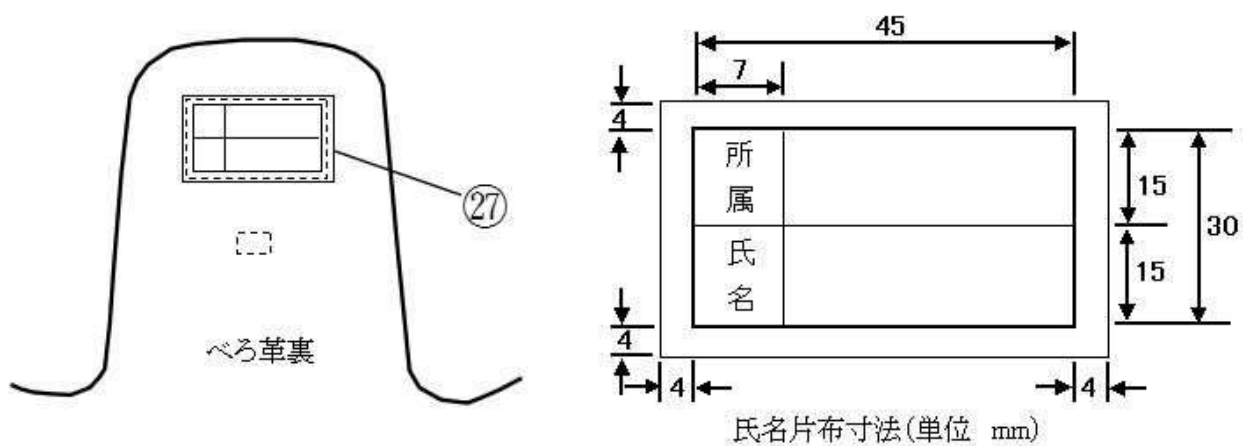
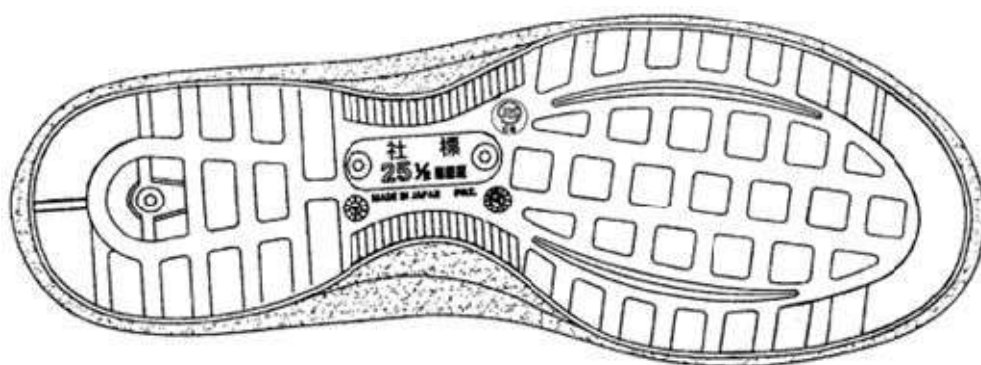


図-3 底意匠



但し、図による各部の形状は多少の相違を認めるものとする。

設 計 書

年度	平成 2 9 年 度	印西地区消防組合消防本部			
	事 業 名	職員靴購入			
	納 入 期 限	平成29年11月27日・平成30年3月23日（新規採用職員）			
	納 入 先	印西地区消防組合消防本部			
物 品 概 要					
金 円					
番号	内 訳	数量	単位	単 価	金 額
1	職員被服（靴）	1	式	円	円
2	新規採用職員（靴）9名分	1	式	円	円
3				円	円
4				円	円
5				円	円
6				円	円
7				円	円
8				円	円
9				円	円
10				円	円
11				円	円
12				円	円
13				円	円
14				円	円
15				円	円
16				円	円
17				円	円
18				円	円
19				円	円
20				円	円
21				円	円
22				円	円
23				円	円
	小 計				円
	消 費 税 相 当 額				円
	合 計				円

設 計 書

年度	平成 2 9 年 度		印西地区消防組合消防本部		
	事 業 名		職員靴購入		
	納 入 期 限		平成30年3月23日(新規採用職員)		
	納 入 先		印西地区消防組合消防本部		
物 品 概 要					
金 円					
番号	内 訳	数量	単位	単 価	金 額
1	短靴	9	足	円	円
2	編上げ	9	足	円	円
3				円	円
4				円	円
5				円	円
6				円	円
7				円	円
8				円	円
9				円	円
10				円	円
11				円	円
12				円	円
13				円	円
14				円	円
15				円	円
16				円	円
17				円	円
18				円	円
19				円	円
20				円	円
21				円	円
22				円	円
23				円	円
	小 計				円
	消 費 税 相 当 額				円
	合 計				円

設 計 書

年度	平成 2 9 年 度	印西地区消防組合消防本部			
	事 業 名	職員靴購入			
	納 入 期 限	平成29年11月27日(職員)			
	納 入 先	印西地区消防組合消防本部			
物 品 概 要					
金 円					
番号	内 訳	数量	単位	単 価	金 額
1	短靴	79	足	円	円
2	救急隊用短靴	33	足	円	円
3	編上げ	30	足	円	円
4				円	円
5				円	円
6				円	円
7				円	円
8				円	円
9				円	円
10				円	円
11				円	円
12				円	円
13				円	円
14				円	円
15				円	円
16				円	円
17				円	円
18				円	円
19				円	円
20				円	円
21				円	円
22				円	円
23				円	円
	小 計				円
	消 費 税 相 当 額				円
	合 計				円

物品類売買契約書

1. 事業の名称 職員靴購入
2. 納入場所 印西地区消防組合消防本部
3. 納入期間 平成29年11月27日 消防職員貸与分
平成30年3月23日 新規採用職員分
4. 契約金額 金 円
(うち取引に係る消費税及び地方消費税の額 金 円)
5. 契約保証金

上記の委託業務について、発注者と受注者は、各々の対等な立場における合意に基づいて、別添の条項によって委託契約を締結し、信義に従って誠実にこれを履行するものとする。

この契約の証として本書2通を作成し、当事者記名押印のうえ、各自1通を保有する。

平成 年 月 日

発注者 住所 千葉県印西市牧の原二丁目3番
印西地区消防組合
氏名 管理者 伊澤史夫 印

受注者 住所
氏名 印

(総則)

- 第1条 発注者及び受注者は、この約款（契約書を含む。以下同じ。）に基づき、設計図書（別冊の図面、仕様書、現場説明書及び現場説明に対する質問回答書をいう。以下同じ。）に従い、日本国の法令を遵守し、この契約（この約款及び設計図書を内容とする物品類売買契約をいう。以下同じ。）を履行しなければならない。
- 2 受注者は、この契約の目的である物品を契約書記載の納入期限内に、納入するものとし、発注者はその契約代金を支払うものとする。
 - 3 受注者は、物品を納入する場合において、設計図書にその品質が明示されていないときは、中等以上の品質のものを納入しなければならない。
 - 4 この契約の履行に関して発注者と受注者との間で用いる言語は、日本語とする。
 - 5 この約款に定める金銭の支払いに用いる通貨は、日本円とする。
 - 6 この約款及び設計図書における期間の定めについては、この契約書又は設計図書等に特別の定めがある場合を除き、民法（明治29年法律第89号）及び商法（明治32年法律第48号）の定めるところによるものとする。
 - 7 この契約は、日本国の法令に準拠するものとする。
 - 8 この契約に係る訴訟の提起又は調停の申立てについては、日本国の裁判所をもって合意による専属的管轄裁判所とする。

(指示等及び協議の書面主義)

- 第2条 この約款に定める指示、請求、通知、報告、申出、承諾、質問、回答及び解除（以下「指示等」という。）は、書面により行わなければならない。
- 2 前項の規定にかかわらず、緊急やむを得ない事情がある場合には、発注者及び受注者は、前項に規定する指示等を口頭で行うことができる。この場合において、発注者及び受注者は、既に行った指示等を書面に記載し、7日以内にこれを相手方に交付するものとする。
 - 3 発注者及び受注者は、この約款の他の条項の規定により協議を行うときは、当該協議の内容を書面に記録するものとする。

(権利義務の譲渡等)

- 第3条 受注者は、この契約により生ずる権利又は義務を第三者に譲渡し、承継させ、又は担保の目的に供することができない。ただし、あらかじめ、発注者の承諾を得た場合は、この限りでない。

(秘密の保持等)

- 第4条 受注者は、当契約の処理上知り得た秘密を他人に漏らしてはならない。
- 2 受注者は、当契約の履行過程において得られた記録簿等を他人に閲覧させ、複製させ、又は譲渡してはならない。ただし、発注者の承認を得たときは、この限りでない。

(担当職員)

- 第5条 発注者は、担当職員を置いたときは、その氏名等を受注者に通知しなければならない。担当職員を変更したときも、同様とする。
- 2 担当職員は、この約款の他の条項に定めるもの及びこの約款に基づく発注者の権限とされる事項のうち発注者が必要と認めて担当職員に委任したもののほか、設計図書に定めるところにより、次に掲げる権限を有する。
 - (1) 発注者の意図する納品を完了させるための受注者に対する指示。
 - (2) この約款及び設計図書の記載内容に関する受注者の確認の申出、又は質問に対する承諾、又は回答。
 - (3) この契約の履行に関する受注者との協議。
 - (4) この契約の進捗状況の確認、設計図書の記載内容と履行内容との照合その他契約の履行状況の調査。
 - 3 発注者は、2名以上の担当職員を置き、前項の権限を分担させたときにあっては、それぞれの担当職員の有する権限の内容を、担当職員にこの約款に基づく発注者の権限の一部を委任したときにあっては当該委任した権限の内容を、受注者に通知しなければならない。
 - 4 第2項の規定による担当職員の指示又は承諾は、原則として、書面により行わなければな

らない。

5 この約款に定める書面の提出は、設計図書に定めるものを除き、担当職員を経由して行うものとする。この場合においては、担当職員に到達した日をもって発注者に到達したものとみなす。

6 発注者が担当職員を置かないときは、この約款に定める担当職員の権限は、発注者に帰属する。

(納品書等の提出等)

第6条 受注者は物品を納品するときは、発注者の定める項目を記載した納品書を発注者に提出しなければならない。

2 受注者は、物品を納品するときは、あらかじめ指定された場合を除き、一括して納入しなければならない。ただし、発注者がやむを得ない理由があると認めるときは、分割して納入することができる。

3 受注者は、発注者に納入した物品は原則として、検収に不合格となったものを除いて持ち出すことはできない。

(納入期限の延長等)

第7条 受注者は、納入期限内に物品を納入することができないときは、その理由を明示して、発注者に納入期限の延長を申し出ることができる。

2 前項の規定による申し出があった場合において、その理由が受注者の責に帰することができないものであるときは、発注者は、相当と認める日数の延長を認めることがある。

(契約内容の変更等)

第8条 発注者は必要があるときは、受注者と協議の上、この契約の内容を変更し、又は物品の納入を一時中止させることができる。この場合において契約金額又は納入期限を変更する必要があるときは、発注者と受注者とが協議して書面によりこれを定める。

(天災その他不可抗力による契約内容の変更)

第9条 契約締結後において、天災事変その他の不測の事件に基づく日本国内での経済事勢の激変により契約内容が著しく不相当と認められるに至ったときは、その実情に応じ、発注者又は受注者は相手方と協議の上、契約金額、その他の契約内容を変更することができる。

(検収)

第10条 発注者は第6条第1項の規定により受注者から納品書の提出があったときは、その日から起算して10日以内に発注者又は発注者が検収を行う者として定めた職員（以下「検査職員」という。）の職員をして検収を行うものとする。

2 前項の検収を行う場合において、必要があるときは、発注者はその理由を通知して、破壊もしくは分解又は試験により検収を行うことができる。

3 受注者は、あらかじめ指定された日時及び場所において、第1項の検収に立ちあわなければならない。

4 受注者は、第1項の検収に立ち会わなかったときは、検収の結果について異議を申し立てることができない。

5 発注者は、必要があるときは、第1項の検収のほか、納入が完了するまでにおいて、品質等の確認検収を行うことができる。この場合、第2項から第4項までの規定を準用する。

6 第1項及び前項の検収に直接必要な費用並びに検収のため、変質、変形、消耗又はき損した物品にかかわる損失は、すべて受注者の負担とする。

7 受注者は、第1項の検収に合格しないときは、直ちに修補して発注者の検収を受けなければならない。この場合において、修補の完了を物品類納入の完了とみなして第2項から第6項までの規定を準用する。

(契約代金の支払い)

第11条 受注者は、物品の納入が完了し、かつ発注者の検収に合格したとき又は第13条第2項の協議が成立したときは契約代金を請求することができる。

2 前項の規定にかかわらず、受注者は、物品を分割して納入し発注者の検収に合格したときは、当該納入物品に係る契約代金を請求することができる。ただし、設計図書等において納

入が完了し、かつ発注者の検収に合格したときに一括して契約代金を支払うと定めたときはこの限りではない。

3 発注者は、前2項の請求を受けたときは、その日から起算して30日以内に、契約代金を支払わなければならない。

4 発注者が、前項の期間内に契約代金を支払わないときは、受注者は発注者に対して支払い遅延日数に応じ、この契約の締結日における政府契約の支払遅延防止等に関する法律（昭和24年法律第256号）第8条第1項の規定により財務大臣が決定する率で計算した金額を遅延利息として請求することができる。

（引換え又は手直し）

第12条 受注者は、納入した物品の全部または一部が第10条第1項の検収に合格しないときは、速やかに引換え又は手直しを行い、設計図書等に適合した物品を納入しなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、受注者は、発注者により引換え又は手直しのための期間を指定されたときは、その期間内に設計図書等に適合した物品を納入しなければならない。

3 受注者は、前2項の規定により引換え又は手直しが完了したときは、その物品を納入場所において発注者に納入するとともに、第6条第1項に定める納品書を発注者に提出しなければならない。

4 発注者は、前項の規定により受注者から納品書の提出があったときは、その日から起算して10日以内に検収を行うものとする。

5 第10条第2項から第4項まで及び第6項の規定は、前項の検収について準用する。

（減価採用）

第13条 発注者は第10条第1項又は前条第4項の検収に合格しなかった物品等について、そのかしの程度が軽微であり、かつ、使用上支障がないと認めるときは、契約金額を減額して採用することができる。

2 前項の規定により減額する金額については、発注者と受注者とが協議の上、定めるものとする。

（所有権の移転、引渡し及び危険負担）

第14条 物品の所有権は、検収に合格したとき、又は前条第2項の協議が成立したときに、受注者から発注者に移転し、同時にその物品は、発注者に対し引き渡されるものとする。

2 前項の規定により所有権が移転する前に生じた物品についての損害は、すべて受注者の負担とする。

（かし担保）

第15条 受注者は、納入した物品に品質不良、変質、数量の不足その他のかしがあるときは、別に定める場合を除き、所有権移転の日から1年間、その補修、引換え、補足又はこれに変えて若しくは併せて損害賠償の責を負うものとする。ただし、発注者の指示又は発注者の重大な過失により生じたものであるときは、この限りでない。

（延滞違約金）

第16条 受注者の責に帰すべき理由により納入期限までに物品を納入することができない場合において、納入期限後相当の期間内に物品を納入する見込みのあるときは、発注者は受注者から遅延違約金を徴収して納入期限を延長することができる。

2 前項の遅延違約金の額は、納入期限の翌日から納入した日までの日数に応じ、この契約の締結日における、印西地区消防組合において制定すべき規則のうち印西市規則を準用する規則で定める、印西市契約事務規則（平成18年規則第19号）第29条第1項に規定する違約金の率で計算した額とする。

3 前項の規定にかかわらず、納入した物品の一部が第10条第1項又は第12条第4項の検収に合格したときは、第1項の遅延損害金の額は、契約金額から当該検収に合格したものの契約金額相当額を控除した金額を基礎として計算する。

4 第12条第2項の規定により引き換え又は手直しの期間を指定した場合において、当該引換え又は手直しに係る物品が指定した期間経過後に納入されたものであるときは、当該物品

に係る遅延違約金は、納入期限の翌日から計算する。

5 前各項の遅延違約金の計算の基礎となる日数には、検収に要した日数を算入しない。
(談合その他不正行為に係る解除)

第17条 発注者は、受注者がこの契約に関して、次の各号のいずれかに該当したときは、第18条の規定にかかわらずこの契約を解除することができる。

(1) 公正取引委員会が、受注者に違反行為があったとして私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律（昭和22年法律第54号。以下「独占禁止法」という。）第7条第1項の規定による措置を命じ、当該命令が確定したとき、又は独占禁止法第7条の2第1項の規定による課徴金の納付を命じ、当該命令が確定したとき。

(2) 受注者（受注者が法人の場合にあっては、その役員又はその使用人）が刑法（明治40年法律第45号）第96条の6又は同法第198条の規定による刑が確定したとき。

2 受注者が協同組合及び共同企業体（以下「協同組合等」という。）である場合における前項の規定については、その代表者又は構成員が同項各号のいずれかに該当した場合に適用する。

3 前条第2項及び第3項の規定は、第1項各号の規定による解除の場合に準用する。

(談合その他不正行為に係る賠償金の支払い)

第17条の2 受注者は、前条第1項各号のいずれかに相当するときは、発注者がこの契約を解除するか否かにかかわらず、賠償金として、契約金額の10分の2に相当する額を発注者が指定する期限までに支払わなければならない。受注者がこの契約を履行した後も同様とする。ただし、前条第1項第1号において、命令の対象となる行為が、独占禁止法第2条第9項第3号及び同項第6号に基づく不正な取引方法（昭和57年6月18日公正取引委員会告示第15号）第6項に規定する不当廉売である場合その他発注者が特に必要と認める場合は、この限りでない。

2 前項の規定にかかわらず、発注者は、発注者の生じた実際の損害額が同項に規定する賠償金の額を超える場合においては、受注者に対しその超過分につき賠償を請求することができる。

3 前2項の場合において、受注者が協同組合等であるときは、代表者又は構成員は、賠償金を連帯して発注者に支払わなければならない。受注者が既に協同組合等を解散しているときは、代表者であった者又は構成員であった者についても、同様とする。

(発注者の解除権)

第18条 発注者は、受注者が次の各号のいずれかに該当するときは、この契約を解除することができる。

(1) 受注者が納入期限内に契約を履行しないとき、又は履行する見込みが明らかにならないときと発注者が認めるとき。

(2) 受注者又はその代理人若しくは使用人が契約の締結又は履行に当たり、不正な行為をしたとき。

(3) 受注者又はその代理人若しくは使用人が正当な理由がなく、発注者の担当職員又は検査職員の指示に従わないとき、又はその職務の執行を妨害したとき。

(4) 受注者が地方自治法施行令（昭和22年政令第16号）第167条の4第1項の規定に該当すると判明したとき。

(5) 前各号のほか、受注者が、この契約に基づく義務を履行しないとき。

(6) 第22条の規定によらないで、受注者から契約解除の申出があったとき。

(7) 受注者が次のいずれかに該当するとき

イ 役員等（受注者が個人である場合にはその者を、受注者が法人である場合にはその代表者、非常勤を含む役員、その支店若しくは営業所を代表する者又は経営に実質的に関与している者をいう。以下この号において同じ。）が暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号。以下「暴力団対策法」という。）第2条第6号に規定する暴力団員（以下この号において「暴力団員」という。）であると認められるとき。

ロ 役員等が自己、自社若しくは第三者の不正の利益を図る目的又は第三者に損害を加える目的をもって、暴力団（暴力団対策法第2条第2号に規定する暴力団をいう。以下この号において同じ。）又は暴力団員を利用するなどしたと認められるとき。

ハ 役員等が、暴力団又は暴力団員に対して資金等を供給し、又は便宜を供与するなど直接的あるいは積極的に暴力団の維持、運営に協力し、若しくは関与していると認められるとき。

ニ 役員等が、暴力団又は暴力団員と社会的に非難されるべき関係を有していると認められるとき。

ホ 役員等がこの契約に関し、相手方が暴力団又は暴力団員であることを知りながら、継続的に物品の購入や労働の供給又は派遣を受けるなど、不当に利用していると認められるとき。

ヘ 財産の買入れの契約その他の契約にあたり、その相手方がイからホまでのいずれかに該当することを知りながら、当該者と契約を締結したと認められるとき。

ト 受注者が、イからホまでのいずれかに該当する者を再委託契約その他の契約の相手方としていた場合に、発注者が受注者に対して当該契約の解除を求め、受注者がこれに従わなかったとき。

2 前項の規定により契約が解除されたときは、契約保証金は、発注者に帰属する。

3 受注者は、契約保証金の納付がなく、第1項の規定により契約が解除されたときは、契約金額の10分の1に相当する額を違約金として発注者に納付しなければならない。この場合において、分割納入し発注者の検収に合格した物品があるときは、契約金額から分割納入した物品の契約金額相当額を控除した金額の10分の1に相当する額を違約金とする。

（業務妨害又は不当要求に対する措置）

第19条 受注者は、この契約の履行に当たり、以下の事項を遵守しなければならない。

暴力団等（暴力団対策法第2条に規定するものをいう。）から工事妨害又は不当要求を受けた場合は、毅然として拒否し、その旨を速やかに発注者に報告するとともに、所轄の警察署に届け出ること。

（遵守義務違反）

第20条 発注者は、受注者が前条に違反した場合は、印西市建設工事請負業者等指名停止措置要綱（平成27年告示第69号）の定めるところにより、指名停止の措置を行う。受注者の再委託業者が報告を怠った場合も同様とする。

第21条 発注者は、この契約が完了するまでの間は、第18条第1項及び第2項の規定によるほか、必要があるときは、この契約を解除することができる。

2 発注者は、前項の規定によりこの契約を解除したことにより受注者に損害を及ぼしたときは、その損害を賠償しなければならない。

（受注者の解除権）

第22条 受注者は、次の各号の一に該当するときは、契約を解除することができる。

(1) 第8条の規定により、発注者が物品の納入を一時中止させまたは一時中止させようとする場合において、その中止期間が3月以上に及ぶとき又は契約期間の3分の2以上に及ぶとき。

(2) 第8条の規定により、発注者が契約内容を変更しようとする場合において、当初の契約金額の2分の1以下に減少することとなるとき。

（解除に伴う措置）

第23条 発注者は、契約が解除された場合においては、出来形部分を検収の上、当該検収に合格した部分および部分払いの対象となった契約代金の引渡しを受けるものとし、当該引渡しを受けたときは、当該引渡しを受けた出来形部分に相応する契約代金を受注者に支払わなければならない。この場合において、発注者は必要があると認められるときは、その理由を受注者に通知して、出来形部分を最小限度破壊もしくは分解又は試験により検収することができる。

2 前項の場合において検収又は復旧に直接要する費用は、受注者の負担とする。

3 受注者は、契約が解除された場合において、貸与品があるときは、当該貸与品を発注者に返還しなければならない。この場合において、当該貸与品が受注者の故意又は過失により滅失またはき損したときは、代品を納め、若しくは原状に復して返還し、又は返還に代えてその損害を賠償しなければならない。

(相殺)

第24条 発注者は、受注者に対して有する金銭債権があるときは、受注者が発注者に対して有する契約代金請求権及びその他の債権と相殺し、不足があるときは、これを追徴する。

(個人情報の保護)

第25条 受注者は、この契約による事務を処理するための個人情報の取扱いについては、別記「個人情報取扱特記事項」を守らなければならない。

(データの保護)

第26条 受注者は、この契約による事務を処理するためのデータの取扱いについては、別記「行政情報取扱特記事項」及び「情報セキュリティ特記事項」を守らなければならない。

(法令遵守)

第27条 受注者は、この契約の実施に当たり、関係諸法令を遵守しなければならない。

(契約外の事項)

第28条 この約款に定めのない事項については、必要に応じて発注者と受注者とが協議して定める。

個人情報取扱特記事項

(基本的事項)

第1 受注者は、個人情報の保護の重要性を認識し、この契約による事務を処理するための個人情報の取扱いに当たっては、個人の権利利益を侵害することのないよう、個人情報（特定個人情報を含む。以下同じ。）を適正に取り扱わなければならない。

(秘密の保持)

第2 受注者は、この契約による事務に関して知り得た個人情報をみだりに他人に知らせ、又は不当な目的に使用してはならない。この契約が終了し、又は解除された後においても同様とする。

(事務従事者への周知及び監督)

第3 受注者は、その事務に従事する者に対し、在職中及び退職後においてもこの契約による事務に関して知り得た個人情報をみだりに他人に知らせ、又は不当な目的に使用してはならないことなど、個人情報の保護に関して必要な事項を周知し、遵守するよう監督しなければならない。

(漏えい、滅失及びき損の防止)

第4 受注者は、この契約による事務に係る個人情報の漏えい、滅失及びき損の防止その他の個人情報の適正な管理のために必要な措置を講じなければならない。

(収集の制限)

第5 受注者は、この契約による事務を処理するために個人情報を収集するときは、当該事務を処理するために必要な最小限の範囲内で、適法かつ公正な手段により行わなければならない。

(個人情報の目的外利用及び提供の禁止)

第6 受注者は、発注者の指示又は承諾があるときを除き、この契約による事務に関して知り得た個人情報を当該事務を処理するため以外に利用し、又は第三者に提供してはならない。

(複写等の禁止)

第7 受注者は、発注者の指示又は承諾があるときを除き、この契約による事務を処理するために発注者から貸与された個人情報が記録された、文書、図画及び電磁的記録（以下「資料等」という。）を複写し、又は複製してはならない。

(再委託の禁止)

第8 受注者は、この契約による事務を処理するための個人情報を自ら取り扱うものとし、発注者の承諾があるときを除き、第三者に取り扱わせてはならない。また、承諾は書面によるものとする。

(資料等の返還等)

第9 受注者は、この契約による事務を処理するため発注者から貸与され、又は受注者が収集し、若しくは作成した個人情報が記録された資料等をこの契約の完了後直ちに発注者に返還し、又は引き渡すものとする。ただし、発注者が別に指示したときは、当該指示に従うものとする。

(特定個人情報を取り扱う事務従事者の明確化)

第10 受注者は、この契約による事務を処理するために特定個人情報を取り扱う事務従事者を報告しなければならない。

(特定個人情報の取扱いについての報告)

第11 受注者は、発注者から要求があった場合は、特定個人情報の取扱いの遵守状況について、書面により報告しなければならない。

(特定個人情報の取扱いについての実地調査)

第12 発注者は、特定個人情報の取扱いについて、必要が生じた場合は、受注者の了解を得て、受注者の事業所を実地調査することができる。なお、調査にあたっては受注者の立会いを求めるものとする。

(事故発生時の報告)

第13 受注者は、この個人情報取扱特記事項に違反する事態が生じ、又は生ずるおそれあることを知ったときは、速やかに発注者に報告し、発注者の指示に従うものとする。契約が完了し、又は解除された後においても同様とする。

(契約の解除及び損害賠償)

第14 発注者は、受注者がこの個人情報取扱特記事項に違反していると認めたときは、契約の解除及び損害賠償の請求をすることができるものとする。

注

1 個人情報取扱事務の委託の実態に即して、適宜、必要な事項を追加し、又は不要な事項を省略するものとする。

行政情報取扱特記事項

(基本的事項)

第1 受注者は、行政情報の保護の重要性を認識し、この契約による事務を処理するための行政情報の取扱いに当たっては、行政等の権利利益を侵害することのないよう、行政情報を適正に取り扱わなければならない。

(秘密の保持)

第2 受注者は、この契約による事務に関して知り得た行政情報をみだりに他人に知らせ、又は不当な目的に使用してはならない。この契約が終了し、又は解除された後においても同様とする。

(事務従事者への周知)

第3 受注者は、その事務に従事する者に対し、在職中及び退職後においてもこの契約による事務に関して知り得た行政情報をみだりに他人に知らせ、又は不当な目的に使用してはならないことなど、行政情報の保護に関して必要な事項を周知しなければならない。

(漏えい、滅失及びき損の防止)

第4 受注者は、この契約による事務に係る行政情報の漏えい、滅失及びき損の防止その他の行政情報の適正な管理のために必要な措置を講じなければならない。

(収集の制限)

第5 受注者は、この契約による事務を処理するために行政情報を収集するときは、当該事務を処理するために必要な最小限の範囲内で、適法かつ公正な手段により行わなければならない。

(行政情報の目的外利用及び提供の禁止)

第6 受注者は、発注者の指示又は承諾があるときを除き、この契約による事務に関して知り得た行政情報を、当該事務を履行するため以外に利用し、又は第三者に提供してはならない。

(複写等の禁止)

第7 受注者は、発注者の指示又は承諾があるときを除き、この契約による事務を処理するために発注者から貸与された行政情報が記録された資料等を複写し、又は複製してはならない。

(再委託の禁止)

第8 受注者は、この契約による事務を処理するための行政情報を自ら取り扱うものとし、発注者の承諾があるときを除き、第三者に取り扱わせてはならない。

(資料等の返還等)

第9 受注者は、この契約による事務を処理するため発注者から貸与され、又は受注者が収集し、若しくは作成した行政情報が記録された資料等をこの契約の完了後直ちに発注者に返還し、又は引き渡すものとする。ただし、発注者が別に指示したときは、当該指示に従うものとする。

(事故発生時における報告)

第10 受注者は、この行政情報取扱特記事項に違反する事態が生じ、又は生ずるおそれあることを知ったときは、速やかに発注者に報告し、発注者の指示に従うものとする。契約が完了し、又は解除された後においても同様とする。

(契約の解除及び損害賠償)

第11 発注者は、受注者がこの行政情報取扱特記事項に違反していると認めるときは、契約の解除及び損害賠償の請求をすることができるものとする。

注

1 行政情報取扱事務の委託の実態に即して、適宜、必要な事項を追加し、又は不要な事項を省略するものとする。

情報セキュリティ特記事項

(行政情報の管理及び取扱い)

第1 受注者は、行政情報を取り扱うシステムにパスワード等によるアクセス制限を行わなければならない。

(記録媒体の管理)

第2 受注者は、行政情報を記録した取り外し可能な記録媒体を保管する場合、外部からの脅威にさらされないよう施錠ができるなど安全な場所に保管し、適切に管理しなければならない。

(記録媒体の処分)

第3 受注者は、記録媒体が磨耗等により不要となった場合は、当該媒体に記録されている行政情報をいかなる方法によっても復元できないように消去等を行った上で廃棄しなければならない。

第4 受注者は、行政情報を記録した記録媒体の廃棄は、廃棄を行った日時、担当者及び処理内容を記録し、発注者に報告しなければならない。

(情報システムの搬入・搬出)

第5 受注者は、機器等を搬入・搬出する場合は、あらかじめ既存情報システム等に対する安全性について、可能である場合には調査し、発注者に報告するものとする。

なお、調査が困難である場合には、発注者に確認する等適切な対応を行うものとする。

第6 機器等の搬入・搬出には、発注者及び受注者が立ち会うものとする。

(設置に係わる事項)

第7 受注者は、停電及び電圧異常等によりデータ等が破壊され、業務処理に支障を来す恐れのある情報システムの機器の電源は、当該機器を適切に停止するまでの間に必要な電力を供給する容量の予備電源を備え付ける等の措置を講じなければならない。

第8 受注者は、配線が傍受又は損傷等を受けることがないように可能な限り必要な措置を講じなければならない。

第9 受注者は、設置する情報システム等の動作に影響を及ぼさない場所を考慮し、設置しなければならない。

第10 受注者は、設置する情報システム等を盗難より防止するための物理的措置を講じなければならない。

第11 受注者は、情報システムを市の施設以外に設置する場合は、発注者の許可を得ると共に、情報セキュリティ対策を講じなければならない。

(作業に係わる事項)

第12 受注者は、機器等の管理及び保守に従事させる者を発注者の許可を得て、その設置場所に立ち入らせる場合には、必ず身分証明書を携帯させなければならない。また発注者から身分証明書の提示を求められた場合には、提示しなければならない。

第13 受注者は、業務目的以外での情報システムの使用を行ってはならない。

第14 受注者は、成果品（保守の履行過程において得られた記録等を含む。）を他人に閲覧させ、複写させ、又は譲渡してはならない。ただし、発注者の承認を得たときは、この限りでない。

第15 受注者は、発注者の許可を得ずに、記録媒体等を執務室外に持ち出してはならない。

第16 受注者は、発注者の許可を得ずに、情報システムの機器を執務室外に持ち出してはならない。

第17 受注者は、いかなる場合にも知り得た情報を他に漏らしてはならない。

(パスワード等の管理)

第18 受注者は、自己の保有するパスワードについて、不用意にもらしたりメモを作ったりしないようにするなど、パスワードの秘密保持に努めなければならない。

第19 受注者は、ICカード又はユーザーID等を適切に管理しなければならない。

(仕様書等の管理)

第20 受注者は、当該システムの仕様書等を最新の状態にしなければならない。また、システムの仕様変更等の処理を行った場合は、その記録を作成し、発注者に報告しなければならない。

(侵害記録の作成)

第21 受注者は、当該システムに侵害が発生した場合は、その記録を作成し、発注者に報告しなければならない。

(発注者以外のネットワークとの接続)

第22 受注者は、当該情報システムを発注者以外のネットワークとの接続する場合、ネットワーク構成、機器構成及び情報セキュリティレベル等を詳細に検討し、情報資産に影響が生じないことを確認したうえで、発注者の許可に基づき接続しなければならない。

第23 受注者は、発注者以外のネットワークとの接続を行うことでネットワークの安全性が脅かさ

れることの無いようにセキュリティ対策に努めなければならない。

第24 受注者は、接続した発注者以外のネットワークの情報セキュリティに問題が認められた場合には、速やかに当該ネットワークを物理的に遮断しなければならない。

第25 受注者は、発注者のネットワークの情報セキュリティに問題が認められた場合には、速やかに当該ネットワークを、発注者以外のネットワークから遮断しなければならない。

(情報システムの追加・変更)

第26 受注者は、情報システムのソフトウェアを追加・変更する場合は、情報セキュリティ上問題にならないかどうか確認後、発注者の許可を得なければならない。

第27 受注者は、ソフトウェアを追加・変更する場合は、既に稼働している情報システムに接続する前に十分な試験を行わなければならない。

(情報システムの変更管理)

第28 受注者は、情報システムを追加、変更した場合は、その際の設定・構成等の履歴を記録・保存し、必要な場合には復旧できるようにしなければならない。

(情報システムの保守及び更新)

第29 受注者は、情報システムに情報セキュリティに関する不具合が生じた場合は、速やかに対応を行わなければならない。

第30 受注者は、情報システムのソフトウェアの更新については、計画的に実施しなければならない。

(機器の修理及び廃棄)

第31 受注者は、情報システムの機器を修理する場合、又は貸借期限終了等により廃棄する場合、可能な範囲でバックアップを取らなければならない。

第32 受注者は、情報システムの機器を修理により、市の施設外に機器を持ち出す場合、記録媒体内の全ての行政情報を消去しなければならない。なお、行政情報の消去が難しい場合は、発注者の立ち会いのもと、市の施設内において作業を行わなければならない。

第33 受注者は、貸借期限終了等により廃棄する場合は、記録媒体内の全ての行政情報を消去しなければならない。

(機器構成の変更)

第34 受注者は、情報システムの機器の増設・交換を行う必要がある場合には、発注者の許可を得なければならない。

(ウイルス対策)

第35 受注者は、情報システムにウイルス対策ソフトを導入しなければならない。

第36 発注者は、ウイルスチェック用のパターンファイルを常に最新のものに更新しなければならない。

第37 受注者は、ウイルスに関する情報の収集に努め、当該情報システムに影響を及ぼす可能性がある場合には、その情報を発注者に伝え、注意を喚起しなければならない。

第38 発注者は、当該情報システムにおいて、コンピュータウイルスが発見されたときは、速やかに受注者に報告しなければならない。

(不正アクセス対策)

第39 発注者は、情報システムのセキュリティに関する情報を常に収集し、受注者より修正プログラムの提供があった時は、速やかに対応しなければならない。

第40 発注者は、情報システムに不正アクセスの疑いがある場合には、受注者に報告しなければならない。なお、このとき、受注者は適切な措置を講じなければならない。

(法令等遵守)

第41 受注者は、以下の法令等を遵守する。

(1) 不正アクセス行為の禁止等に関する法律(平成11年法律第128号)

(2) 著作権法(昭和45年法律第48号)

(3) 行政機関の保有する電子計算機処理に係る個人情報の保護に関する法律(昭和63年法律第95号)

(4) 印西地区消防組合個人情報保護条例(平成17年条例第3号)

暴力団排除等に係る契約解除と損害賠償に関する特約

(総則)

第1条 この特約は、この特約が添付される契約と一体をなす。

(表明確約)

第2条 契約の相手方(以下「受注者」という。)は、次の各号のいずれにも該当しないことを表明し、かつ、将来にわたっても該当しないことを確約する。

- (1) 法人等(個人、法人又は団体をいう。以下同じ。)の役員等(個人である場合はその者を、法人である場合にはその代表者、非常勤を含む役員、その支店若しくは営業所を代表する者又は経営に実質的に関与している者をいう。以下同じ。)が暴力団員(暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律第2条第6号に規定するものをいう。以下同じ。)である。
 - (2) 法人等の役員等が、自己、自社若しくは第三者に不正の利益を図る目的、又は第三者に損害を加える目的をもって、暴力団(暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律(平成3年法律第77号)第2条第2号に規定するものをいう。以下同じ。)又は暴力団員を利用するなどしている。
 - (3) 法人等の役員等が、暴力団又は暴力団員に対して資金等を供給し、又は便宜を供与するなど直接的あるいは積極的に暴力団の維持、運営に協力し、若しくは関与している。
 - (4) 法人等の役員等が、暴力団又は暴力団員と社会的に非難されるべき関係を有している。
 - (5) 法人等の役員等が、暴力団、暴力団員又は第1号から第4号に該当する法人等であることを知りながら、これを不当に利用するなどしている。
- 2 受注者は、前項各号のいずれかに該当する者を下請負人等(下請負人(下請が数次にわたるときは、すべての下請負人を含む。))受任者(再委任以降のすべての受任者を含む。))及び下請負人若しくは受任者が当該契約に関して個別に契約する場合の当該契約の相手方をいう。)としないことを確約する。

(暴力団等排除に係る解除及び賠償)

第3条 消防組合(以下「発注者」という。)は、契約の定めるところの暴力団、暴力団員又は暴力団若しくは暴力団員と密接な関係を有する者により契約を解除した場合は、これにより生じた損害について、何ら賠償ないし補償することは要しない。

(関係機関への照会)

第4条 発注者は、暴力団、暴力団員又は暴力団若しくは暴力団員と密接な関係を有する者の排除を目的として、必要と認める場合には、受注者に対して、受注者又はこの契約の下請負人等の役員等についての名簿その他の必要な情報の提供を求めることができる。

2 発注者は、受注者から提供された情報を所轄の警察署に提供することができる。

3 受注者は、発注者が前項に基づき警察署へ情報の提供をすることについて、承諾するものとする。

(工事若しくは業務妨害又は不当要求に対する措置)

第5条 受注者は、契約の履行に当たり、以下の事項を遵守しなければならない。

- (1) 暴力団、暴力団員又は暴力団若しくは暴力団員と密接な関係を有する者から工事若しくは業務妨害又は不当要求を受けた場合は、毅然として拒否し、その旨を速やかに発注者に報告するとともに、所轄の警察署に届け出ること。
- (2) 受注者は、自ら又は下請事業者が暴力団、暴力団員又は暴力団若しくは暴力団員と密接な関係を有する者から業務妨害又は不当要求を受けた場合は、毅然として拒否し、受注者に速やかに報告するよう当該下請業者を指導すること。また、下請業者から報告を受けた際は、速やかに発注者に報告するとともに、所轄の警察署に届け出ること。

(遵守義務違反)

第6条 発注者は、受注者が前条に違反した場合は、印西市建設工事等暴力団対策措置要綱(平成19年5月2日告示第95号)の定めるところにより、指名停止の措置を行う。受注者の下請事業者が報告を怠った場合も同様とする。